和歌山ラオス友好協会
建設支援の現地学校訪問
子どもたちから温かい歓迎

発展途上にある東南アジアのラオス人民民主共和国への支援の輪を広げようと活動を続ける「和歌山ラオス友好協会」（田邊毅一会長）は11月12日～16日の日程でラオスを3年ぶりに訪れ、同会の支援で建設された、ルアンパバーン市パノーム村にある村唯一の小学校「パノーム小学校」を視察し、子どもたちと交流した。

パノーム小学校の校舎前で子どもたちと記念撮影（提供写真）

同会は発足（平成27年）当初からの目標だった学校建設支援に令和元年から取り組んだ。校舎とトイレのほか、机、椅子、扇風機などの備品類を含めての寄贈で、会員をはじめ賛同者から寄付金を集めた。工事の委託先は日本にも出先を持つ現地法人で、田邊会長らが事前打ち合わせを重ね、令和2年6月に着工。その後、台風や雨に悩まされながらも順調に工事が進み、同年9月下旬に完成した。

校舎は世界遺産のまちの景観に合わせた温かみのある色調で、2教室中、1室は就学前の子ども41人、もう1室を5年生37人で利用している。ビエンチャンなどの大都市には幼稚園など学べる施設があるが、この地域にはなかったため、要望に沿って今回このようなクラスが設置された。

当初は現地での竣工（しゅんこう）式に田邊会長ら役員が出席を予定していたが、コロナ禍で中止となった。それでも学校からは新校舎で楽しそうに学習する子どもたちの様子が写真とともに伝えられていた。

今回、満を持しての訪問で、田邊会長、寺前正和副会長、前田良造副会長ら10人が参加。現地では市長、教育長、村長、校長、子どもたちの温かい拍手に迎えられ、早速学校内を視察した。田邊会長は「大変温かい歓迎を受けてうれしかった」と話し、あいさつで「日本を知っていますか」と尋ねたところ、全員が「知っています」と答えたことには、「3年前の訪問では3分の1程度だった。私たちの地道な活動が徐々に浸透していると思う。日本とラオスの政府レベルでの交流に発展してほしい」と思いを込めた。

感謝状と記念品を掲げる田邊会長（中）、寺前副会長（左）、前田副会長

田邊会長、寺前副会長、前田副会長の3人ともに「現地に行くと、また支援したい気持ちにさせてくれる」と口をそろえる。現地当局からは、ルアンパバーン市の市街地から50キロほど離れたホイトン村の学校建設の要望を早速受けたという。物価高などで建設費の増大も予想されるが、田邊会長は「来年は現地を視察し、3年計画でできれば。これからも皆さんの協力をいただきながら頑張りたい」と意欲を見せた。

活動に興味・関心のある人は、和歌山ラオス友好協会事務局（新宮ユーアイホテル内、電話0735・22・6611）。（深瀬浩司）

澤岡さんが珠算七段に
そろばん南紀会の合格者

全国珠算学校連盟が主催する「第345回珠算検定」（文部科学省後援）がこのほど、全国一斉に行われた。そろばん南紀会の合格者は次の皆さん。敬称略。

【珠算】
▽七段
澤岡　純子（一般）
阪　幸志朗
▽五級
杉本　陽佑
▽七級
高桑　僚太
▽八級
杉本　陽奈、野瀬　莉世
【暗算】
▽一級
橋爪　陸（宇久井小5）
▽準一級
世古進之佑